

ICANN会合状況報告

■1. はじめに

2015年2月8日～12日にシンガポールにて開催されたICANN会合中の議論および調整の状況を報告する。

■2. 議論状況

(1) Local scriptとASCIIが交じったラベルについて

- 商号等に頻出することもあり、.cn, .jp, .kr, .twともSLD(第2レベルドメイン)ラベルとして漢字ASCII混じり、ハングルASCII交じりを許している
 - CGP、JGP、KGPともLocal scriptとASCIIが交じったラベルをTLDとして使用可能として欲しい
 - IPとしては、次の理由によりLocal scriptとASCIIが交じったラベルを許さないと判断する
 - + IPがバイブルとしているprincipleでは原則として許さないことになっている
 - + TLD空間は、SLD空間と違って世界中の利用者が等しく目にするものであるため、危険が増えることはしたくない
 - + 英字アルファベットを許すということは、Latin ScriptのLGR(まだ生成パネルは立ち上がっていない)との統合が必要となり、漢字TLDやハングルTLDのルール完成がうんと遅れることになる。
(たとえば、aという文字に対する異体字の定義を待たないとaを日本語LGRにどう入れるかが決まらず結果として日本語LGRが決まらないということ)
 - + 将来、別途Latin LGRが決まってから、Latin LGRとの相性を検討し、漢字ASCII交じり、ハングルASCII混じりを可能とすることがどうかを判断する、ということができないわけではない。
- 特に上記3番目の根拠から、今回は、漢字ASCII混じり、ハングルASCII交じりをあきらめるのが妥当であろう、というのが会合参加しているCJKメンバーの一致した感触

(2) レポートリーについて

- 韓国語LGRには、漢字を含める方向
 - + 異体字はこれから検討だが、多分不要だろうと考えている様子。
- 中国語LGRでは、現提案の19,000字を6,000字くらいにまで減らすことを検討してもよいと考えている
 - + それによって異体字定義も激減するはず
- 異体字定義ができていなくても、まずは先にレポートリーを決めることが互いの検討を加速するために大事

→遅くとも6月までには各生成パネルから出すよう頑張る

(3) 受身的異体字定義について

- 日本語LGR、中国語LGR、韓国語LGRの統合は、整合ある解を作るためには結局IPがやるのではなく、CGP、JGP、KGPがやらねばならない
- 受身的異体字定義は必須
- 米谷のツールの出力をCGP、KGPに見せたところ「good job!」という反応。

61: 今後の検討に資するという理由で、CGP、KGPIにも提供した

62:

63:

64: ■3. その他

65:

66: (a) 全体として、KGPIはまだ課題の理解が十分でない状態にとどまっており、
67: 打合せ時間の大きな割合がKGPIからの稚拙な質問と回答に費やされた。
68: 統合ルールの必要性が理解できていないというのが大きな問題であっ
69: た。

70:

71: (b) 全体として、IPは、ICANNが作成した文書「Procedure to Develop and
72: Maintain the Label Generation Rules for the Root Zone in Respect
73: of IDNA Labels」

74:

<https://www.icann.org/en/system/files/files/draft-lgr-procedure-20mar13-en.pdf>

75: をバイブルとして活動しており、そこに記されたprocedureおよび
76: principlesの例外を作ることを基本的に拒否

77:

78: (c) JGPから投げかけた質問表(資料4-3)への回答は部分的にしか行われなかつ
79: たため、書き物で回答を出してくれるよう、IP、CGP、KGPIに要請。

80:

81:

82: 以上